

地域ごとのまちづくり計画（案）

（宝塚第一小学校区まちづくり協議会）

（パブコメ版）

令和2年（2020年）○月策定

目 次

【はじめに】	1
【現状と課題】	2
【地域の将来像】	4
【基本目標】	4
【具体的な取り組み】	6
【あとがき】	13
【資料】	14

【はじめに】

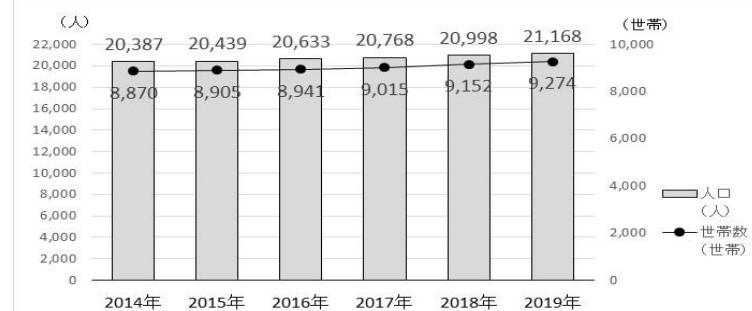
「宝塚のまち」は、武庫川が作る扇状地の両岸に人が住み始めたことで始まります。江戸時代、武庫川左岸の小浜は3つの街道が交わる要所、宿場町として繁栄しました。芝居小屋、湧水での酒造りなど、“エンターテイメントとおもてなし”的なまちのDNAが生まれます。明治17年、温泉が見つかり、まちの中心は、小浜から現在の宝塚駅付近武庫川右岸に移ります。2つの鉄道が開通し、宝塚温泉として最盛期には70近くの旅館が軒を並べ観光地として賑わい、関連産業など含め地域の雇用を支えました。明治44年、阪急電鉄は左岸に宝塚新温泉の施設を作り、家族で楽しめる男女別大浴場や室内プール、ファミリーランドを開場、映画の撮影所もできました。少女歌劇団は1世紀の時代を経て宝塚歌劇となり、年間110万人以上の人々が訪れる娯楽の殿堂に成長し、“タカラヅカ”ブランドの中核をなしています。

宝塚第一小学校区（以下「一小校区」といいます。）は、武庫川右岸の宝塚駅～宝塚南口駅～逆瀬川駅にまたがる平地部から、六甲山系の岩倉山・行者山へとつながる急傾斜地を擁し、武庫川と武庫川へ流れ込む逆瀬川・支多々川・支多々川支流・塩谷川が作る起伏に富んだ地形が広がる地域です。自然豊かで閑静な住宅地に約9千世帯・2万人が暮らしています。宝塚第一小学校（以下「一小」といいます。）は、宝塚市内屈指の児童数を抱えていますが、少子高齢化の波はこの地域にも押し寄せています。

かつては温泉旅館が立ち並んだ月地線界隈や保養施設等が、阪神淡路大震災や景気の低迷の影響で住宅地となり、マンションが立ち並ぶようになりました。また、昭和51年に全国初の市街地再開発事業として完成したサンビオラを中心とした商業地である宝塚南口駅周辺は、大型商業地が近隣各所に開業し、宝塚ホテルも移転するなどにより、新たな局面を迎えています。

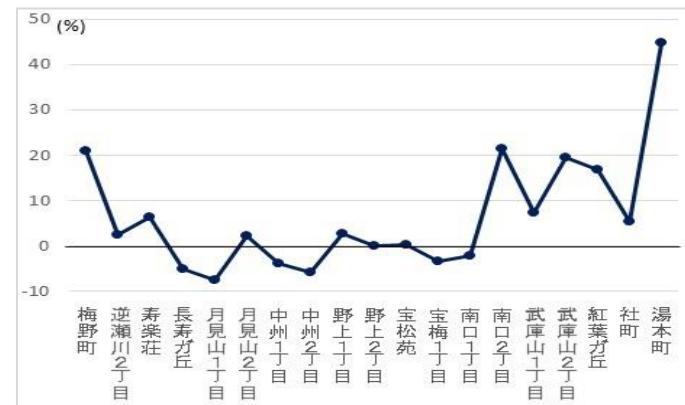
このような現状の中で、「私たちが住み続けたいと思えるまちづくり」を進めるために、「まちの将来像」を見据えて、多くの人・団体が意見を出し合ってこの計画書を作成しました。そして課題を解決し、目指す将来像の実現のために、行政と連携を図り、地域の各団体・住民が力を合わせて取り組んでいきたいと考えています。

宝塚第一小学校区の人口・世帯数の推移



資料：各年3月末日 住民基本台帳（まち協別集計）

町丁目別人口の増減率（2009年～2019年）の推移



資料：各年3月末日 住民基本台帳（町丁目集計）

【現状と課題】

1. 防災

- ① 武庫川から六甲山系の山際まで、逆瀬川・支多々川・支多々川支流・塩谷川の流れが作る起伏に富んだ地形の広がる一小校区内には、ハザードマップにも表示される通り、浸水・土砂災害地域が各所にあります。
- ② 避難場所となっている「一小」は、校区の東の端に位置し、地形的な理由で避難が困難な地域もあります。一時避難所も設定していますが、住民の数から考えて十分な収容定員数が確保されているとはいえない。
- ③ 地域のつながりが薄れている昨今、要援護者などの把握が十分にされておらず、いざというときにしっかりと助け合いができる状況にあります。
- ④ マンションが増え、マンション居住者と地域のつながりがないところも多く、情報共有ができずに災害時に孤立する危険があります。

2. 交通

- ① 一小育友会愛護部が中心となって、毎年通学路の危険箇所をくまなく調査・検証しており、多くの改善必要箇所が上がってきます。これは小学生だけの問題ではなく、どの世代にとっても危険だといえます。
- ② 急傾斜地の多い山間部まで広がった住宅地に暮らす人にとって、買い物や病院に行くための足の確保は必要不可欠です。

3. コミュニティ

- ① 自治会加入率が減少しており、またマンションが増える中、地域のつながりが希薄になって、住民同士の顔が見えにくくなっています。
- ② 地域の情報収集や伝達が十分にできない状態です。
- ③ 一小校区の宝である子どもたち、中高生のやりたい気持ちをサポートし、地域で活躍できる場・体制づくりが求められています。
- ④ 高齢者がいきがいを持って暮らし、地域において活躍できる場づくりを進めていく必要があります。
- ⑤ 地域には自治会・管理組合、防災組織に加え、様々な活動団体、保育園・幼稚園・小学校・中学校・高校・大学、商店・企業などが活動されています。自助・共助の強化、地域の賑わい・交流の活発化に向けて、さらなる相互の関係強化を図る必要があります。

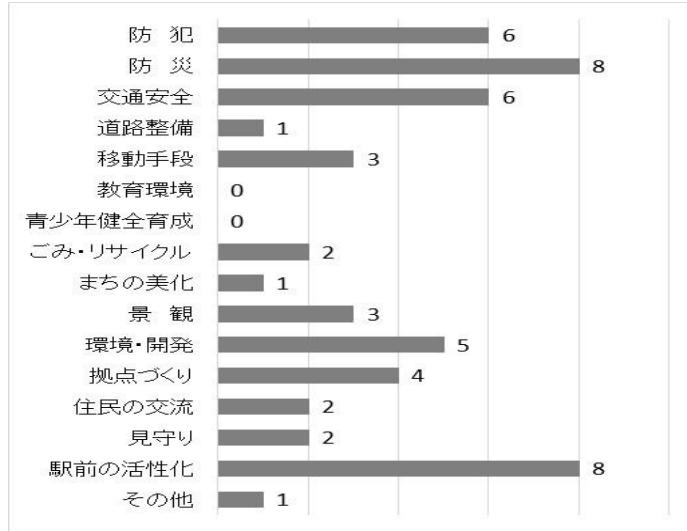
4. 環境

- ① 山手が開発されて住宅地と変容し、相次ぐ温泉旅館や保養施設等の閉鎖後、マンションが林立するようになり、緑の山々を背景とした閑静な住宅地という地域の景観ががらりと変わってしまいました。
- ② 住宅の増加によるごみの問題や緑の保護といった環境問題も出てきています。
- ③ 宝塚南口駅周辺は地域の賑わいの中心ですが、サンビオラの再開発や宝塚ホテルの移転に伴う、新たな展開が求められています。

- ④ 地域で子育てし、高齢になってもいつまでも住み続けるためには、ある程度の利便性と安心が不可欠です。買い物をする商店や病院等の充実とともに、保育所や学校・園、介護体制がしっかりとできている必要があります。
- ⑤ 公園や公共施設が少なく、人の集まる場所が少ないため、ふれあいの場を作ることが難しい状況になっています。

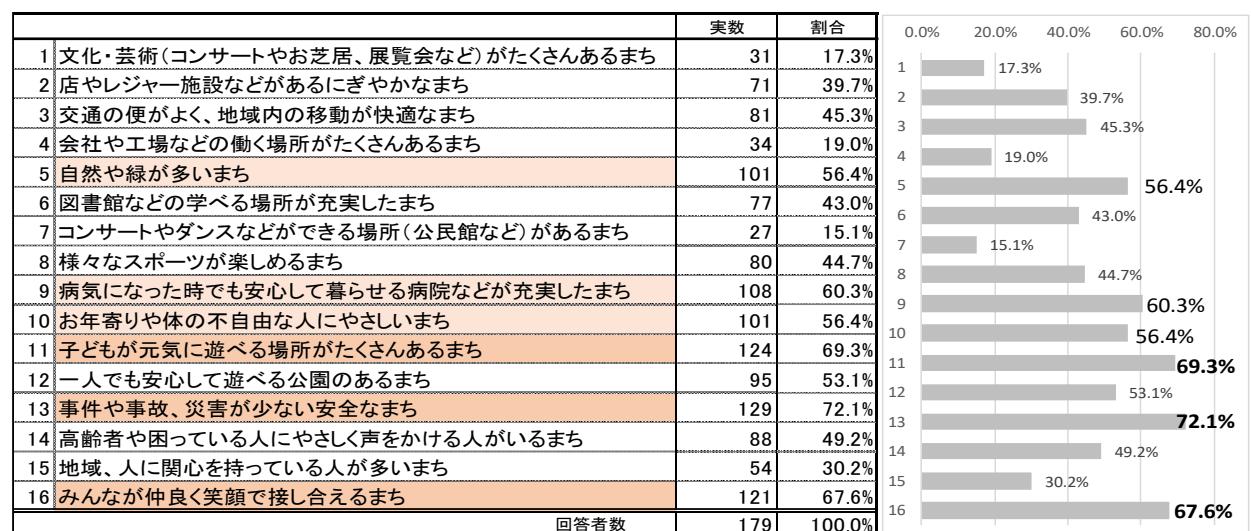
優先度が高い課題

(2018年自治会・管理組合等への意向把握調査結果)



一小校区が将来、どのようなまちになったらよいと思うか？

(2018年宝塚第一小学校5年生アンケート調査結果)



【地域の将来像】

住民が住み続けたいまちづくり

一小校区では、「住民が住み続けたいまちづくり－『持続可能なまち』を目指して！」を目標にまちづくりに取り組んできました。小学生アンケート調査で、一小校区がどのようなまちになったらよいかの上位となったのは、「事件や事故がない安全なまち」「みんなが仲良く笑顔で接し合えるまち」

「自然や緑がおおいまち」「病気になった時でも安心して暮らせる病院が充実したまち」「安心して遊べる公園のあるまち」でした。また、本計画の策定にあたりさまざまな方々と議論を重ね、「住民が住み続けたいまちづくり」の将来像を右のように設定しました。

- ① 宝塚市の都市計画と連携して、環境・景観が保全された地域づくりができている
- ② お店や事業者が地域と一体となって、にぎわっている
- ③ 高齢者がいきいきと生活している
- ④ 自治会・マンション・各種団体・事業者が連携して課題解決にあたっている
- ⑤ 住民が集い憩える場が増えている
- ⑥ 日常のくらしを守る「防災福祉コミュニティ」が確立している
- ⑦ 生活を支える移動手段となる「交通インフラ」が充実している
- ⑧ 通学路をはじめ、障がい者・高齢者、誰にとっても安全な道路が整備されている
- ⑨ 青少年が地域や学校の活動の中で社会への関わり方を学び、地域の一員となっている
- ⑩ 地域全体で子どもを見守り、連携を深めながら子育てをしている

【基本目標】

1. 繙承と発展（歴史・文化・環境・にぎわい）

- 1.1 宝塚ホテル移転を契機に武庫川右岸をどのようなまちにするか、市のビジョンや都市計画の再検討、関係者との協議・検討
- 1.2 宝塚のシンボルとなる緑の保全・景観形成、美化・緑化活動の充実
- 1.3 子ども、子育て世代からシニア世代までが集え憩える公園・集会所などの整備
- 1.4 住民が歴史・文化にふれる機会を増やし、地域への愛着と誇りを醸成
- 1.5 お店や事業者が地域密着型の事業を展開
- 1.6 住民は地域のお店や事業者を利用

【達成したい将来像】

- ① 宝塚市の都市計画と連携して、環境・景観が保全された地域づくりができている
- ② お店や事業者が地域と一体となって、にぎわっている

【重点プロジェクト】

- A 宝塚南口、武庫川右岸のにぎわいづくり
(1.1、1.2、1.3、1.4、1.5、1.6)

2. 地域をつなぐ（つどい、支えあえるまちづくり）

- 2.1 多世代が交流する場づくり
- 2.2 高齢者や障がい者が生きがいをもって地域で活躍する場づくり
- 2.3 地域での見守り、支え合いの充実
- 2.4 保育所や学校・園、医療機関や介護などの生活支援サービスの充実
- 2.5 マンション居住者との情報共有とコミュニケーションの場づくり
- 2.6 自治会や各種団体、事業者などとの地域が抱えている課題の解決に向けた話し合いの場づくり

3. 思いをひろげる（安全・安心）

- 3.1 想定される災害被害を同じくする地域・自治会がブロックを形成し、災害時の対応の検討、ブロックごとの防災計画づくり
- 3.2 地理的な理由で「一小」に避難しにくい地域の“歩いていける距離”での一時避難所の設定
- 3.3 災害時要援護者の把握と「防災福祉コミュニティ」の理念のもと、日常的に顔の見える関係づくり
- 3.4 シニア世代や障がい者などが、買い物、通院、社会参加のために外出しやすく、健康で文化的な生活ができるよう、市と民間事業者が力を合わせて、バス路線など交通インフラの充実
- 3.5 市と協働して危険個所の改善やバリアフリー化の推進
- 3.6 防犯対策の充実

4. 次世代をはぐくむ（将来・未来の担い手を育成）

- 4.1 子どもたちのあそびの場づくり
- 4.2 中・高校生向けの空間づくり
- 4.3 中・高校生が地域で活躍する場づくり
- 4.4 世代間交流の推進
- 4.5 子育て世代の場づくり
- 4.6 「一小の教育現場の課題」を地域連携で検討

【達成したい将来像】

- ③ 高齢者がいきいきと生活している
- ④ 自治会・マンション・各種団体・事業者が連携して課題解決にあたっている
- ⑤ 住民が集い憩える場が増えている
- ⑥ 日常の暮らしを守る「防災福祉コミュニティ」が確立している

【重点プロジェクト】

- B 「マンション・コミュニティ」づくり (2.5)
- C 「防災福祉コミュニティ」づくり (2.3、2.6)

【達成したい将来像】

- ⑥ 日常の暮らしを守る「防災福祉コミュニティ」が確立している
- ⑦ 生活を支える移動手段となる「交通インフラ」が充実している
- ⑧ 通学路をはじめ、障がい者・高齢者、誰にとっても安全な道路が整備されている

【重点プロジェクト】

- C 「防災福祉コミュニティ」づくり (3.1、3.2、3.3)

【達成したい将来像】

- ⑨ 青少年が地域や学校の活動の中で社会への関わり方を学び、地域の一員となっている
- ⑩ 地域全体で子どもを見守り、連携を深めながら子育てをしている

【重点プロジェクト】

- D 中・高校生の地域での活躍の場・居場所づくり (4.2、4.3)

【具体的な取り組み】

基本目標	具体的な取り組み	継 続	新 規	スケジュール(西暦)					役割分担(協働の領域)				備考	
				20 年	第6次総計					① 市民	② 主に 市民	③ 市民と 行政	④ 主に 行政	
					21 年	22 年	23 年	24 年	25 年					
1. 繙承と発展 (歴史・文化・環境・にぎわい)	<p>1.1 武庫川右岸のまちづくりの検討</p> <p>1 「宝塚南口、武庫川右岸のにぎわい」を考える場づくり（今後の取り組みの検討）（1.5.1に再掲）</p> <p>2 宝塚南口駅周辺の賑わいづくり（「生」のプロジェクト、てんてん宝塚現代美術など）</p> <p>3 サンビオラまつりなど</p>													
	1 「宝塚南口、武庫川右岸のにぎわい」を考える場づくり（今後の取り組みの検討）（1.5.1に再掲）		○									○		
	2 宝塚南口駅周辺の賑わいづくり（「生」のプロジェクト、てんてん宝塚現代美術など）	○										○		
	3 サンビオラまつりなど	○								○				
	<p>1.2 緑の保全・環境形成</p> <p>1 河川環境の整備</p> <p>2 街並み緑化活動の支援（「地域花壇の管理支援」「小中学校の緑の管理」等）</p> <p>3 まち美化一斉清掃</p> <p>4 ペットの飼い方マナーの向上</p> <p>5 害鳥・害獣対策</p> <p>6 里山の保全</p> <p>7 桜並木など街路樹の維持・管理</p> <p>8 ゴミ削減に向けての資源ゴミ回収・啓発活動の実施</p> <p>9 不用品交換会などリユースの促進</p> <p>10 環境に配慮したイベント運営</p>													
	1 河川環境の整備	○								○				
	2 街並み緑化活動の支援（「地域花壇の管理支援」「小中学校の緑の管理」等）	○								○				
	3 まち美化一斉清掃	○								○				
	4 ペットの飼い方マナーの向上	○								○				
	5 害鳥・害獣対策	○								○				
	<p>1.3 公園・集会所の整備</p> <p>1 空き家、マンション集会室等の地域資源調査、活用の検討</p>													
	1 空き家、マンション集会室等の地域資源調査、活用の検討		○									○		

基本目標	具体的な取り組み	継続	新規	スケジュール(西暦)					役割分担(協働の領域)				備考	
				20年	第6次総計					①市民	②主に市民	③市民と行政	④主に行政	
					21年	22年	23年	24年	25年					
1. 繼承と発展 (歴史・文化、環境、にぎわい)	2 校区の公園の役割見直し(過去に実施した公園調査の成果の再整理、追加)	○		→						○				
	3 公園集約化に向けた市の計画等への反映		○	→						○				
	1.4 地域への愛着と誇りの醸成													
	1 地域の魅力再発見 (住民が地元のよさを再認識するまち歩きなどを実施する) (1.6.1に再掲)	○		→						○				
	1.5 地域密着型の事業を展開													
	1 「宝塚南口、武庫川右岸のにぎわい」 を考える場づくり (1.1.1に掲載)		○	→										
	1.6 地域のお店や事業者を利用													
	1 地域の魅力再発見 (1.4.1に掲載)	○		→						○				
2. 地域をつなぐ (つどい、支えあえるまちづくり)	2.0 情報の収集・共有・発信													
	1 地域情報の把握・共有	○		→						○				
	2 広報紙発行・全戸配布体制の強化	○		→						○				
	3 ブログ発信・体制・ルールの検討	○		→						○				
	4 広報板の充実と活用	○		→						○				
	2.1 多世代が交流する場づくり													
	1 みんないっしょ夏まつりなどの実施 (4.4.2に再掲)	○		→						○				
	2 宝梅ハウスでの地域住民の交流の場づくり ('宝梅ハウスまつり'等)	○		→						○				
	3 宝梅ハウスを地域情報など情報発信の 場とする	○		→						○				

基本目標	具体的な取り組み	継 続	新 規	スケジュール(西暦)					役割分担(協働の領域)				備考	
				20 年	第6次総計					① 市民	② 主に 市民	③ 市民と 行政	④ 主に 行政	
					21 年	22 年	23 年	24 年	25 年					
2. 地域をつなぐ (つどい、支えあ えるまちづくり)	4 宝梅ハウスの認知度を上げる (評議委員会でPR、自治会見学会の 実施等)		○	→						○				
	2.2 生きがいをもつて地域で活躍する場づくり													
	1 シニアの生きがい、活躍の場づくりの 検討(世代の枠を超えて集まる機会、場 づくりを促進する。個々の持つ能力を発 揮する場を創る。ひいては地域の防災力 を高める。)		○	→						○				
	2 地域で活躍する人材の発掘・確保 (サロン運営スタッフの発掘が急務)		○	→						○				
	2.3 地域での見守り、支えあいの充実													
	1 ふれあいサロンの活用、支援 (身近な居場所として、健康増進、いき がいづくり、情報発信の貴重な場)		○	→						○				
	2 健康づくり活動の推進 (いきいき百歳体操、ラジオ体操等)		○	→						○				
	3 障がいや認知症、LGBT、外国籍など 多様な暮らし、文化を学ぶ機会づくり (3.3.2に再掲)		○	→						○				
	2.4 生活支援サービスの充実													
	1 医療や介護の専門家との連携		○	→						○				
	2 買い物代行、支援などの生活支援の充 実		○	→						○				
	2.5 マンション居住者等とのコミュニケーションの場づくり													
	1 マンション・コミュニティ実行委員会立 ち上げ		○	→						○				

基本目標	具体的な取り組み	継続	新規	スケジュール(西暦)					役割分担(協働の領域)				備考	
				20年	第6次総計					①市民	②主に市民	③市民と行政	④主に行政	
					21年	22年	23年	24年	25年					
2. 地域をつなぐ (つどい、支えあえるまちづくり)	2 地域のPRツールづくり	<input type="radio"/>								<input type="radio"/>				
	3 モデルマンションとの話し合い	<input type="radio"/>								<input type="radio"/>				
	4 マンション防災・福祉検討プログラムづくり	<input type="radio"/>								<input type="radio"/>				
	5 マンション防災・福祉検討プログラム実施	<input type="radio"/>								<input type="radio"/>				
	6 マンション居住者の見守り体制づくり(マンション内での孤立を防ぎ、近隣の住民との支えあいを図る)	<input type="radio"/>								<input type="radio"/>				
	2.6 地域の課題解決に向けた話し合いの場づくり													
2. 地域をつなぐ (つどい、支えあえるまちづくり)	1 地域福祉ネットワーク会議の開催 (地域の福祉課題解決のための交流)	<input type="radio"/>								<input type="radio"/>				
	福祉ブロックの整備 (住民の意見を反映した、日常及び非常時に支えあうブロック割の整備)	<input type="radio"/>								<input type="radio"/>				
	3 ブロックごとの拠点確保 (日常の居場所であり、災害時の一時避難の場、情報発信の場となる)		<input type="radio"/>								<input type="radio"/>			
	4 校区内地域ごとの情報整理・共有 (GIS(地理情報システム)を活用して、情報の分析を促進する)	<input type="radio"/>								<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		
	5 地域交流ネットワーク会議の開催 (地域の課題解決のための団体の知恵の交流)	<input type="radio"/>								<input type="radio"/>				
	6 西谷地区をはじめとする他地区との交流事業 (課題を解決するために連携する)	<input type="radio"/>								<input type="radio"/>				

基本目標	具体的な取り組み	継続	新規	スケジュール(西暦)					役割分担(協働の領域)				備考	
				20年	第6次総計					①市民	②主に市民	③市民と行政	④主に行政	
					21年	22年	23年	24年	25年					
3. 思いをひろげる (安全・安心)	3.1 災害時への対応、防災計画づくり													
	1 防災教育事業の推進 (「児童防災訓練」等)	○									○			
	2 防災訓練の実施	○									○			
	3 避難所開設訓練の実施	○									○			
	4 防災倉庫の充実と整備		○								○			
	5 自主防災会ごとの防災方針の作成	○			→	■	■	■	■	→	○			
	6 ブロックごとの地区防災計画の作成	○			→	■	■	■	■	→	○			
	7 ブロック単位防災訓練、避難訓練の実施	○									○			
	3.2 一時避難所の設定										○			
	1 宝梅ハウスの避難所としての利用の検討 (改修も含めて)		○		→	■	■	■	■	→	○			
	2 小学校への避難困難地区での一時避難所の検討・設置	○									○			
	3.3 災害時要援護者の把握と日常的に顔の見える関係づくり													
	1 災害時要援護者支援体制の充実	○									○			
	2 障がいや認知症、LGBT、外国籍など多様な暮らし、文化を学ぶ機会づくり (2.3.3に掲載)		○								○			
	3.4 交通インフラの充実													
	1 校区住民の移動手段の確保を考える (広い校区と坂道などの課題も、移動手段があれば、拠点の位置の問題も緩和される)	○									○			
	2 渋滞緩和	○									○			

基本目標	具体的な取り組み	継続	新規	スケジュール(西暦)					役割分担(協働の領域)				備考	
				20年	第6次総計					①市民	②主に市民	③市民と行政	④主に行政	
					21年	22年	23年	24年	25年					
3. 思いをひろげる（安全・安心）	3 道路の安全性の向上（スピード抑制、道路拡幅・改善等）	○							→			○		
	3.5 危険箇所の改善・バリアフリー化													
	1 通学路の見守り	○							→			○		
	2 交通安全の啓発（交通安全教室の実施等）	○							→			○		
	3 校区内の安全対策（危険箇所の見守り、改善等）	○							→			○		
	4 校区内危険の改善（年に1回、行政側と進捗を協議確認）	○							→				○	
	3.6 防犯対策の充実													
	1 防犯活動の啓発	○							→			○		
	2 アトム110番など地域での見守り	○							→			○		
	3 防犯カメラの設置	○							→			○		
4. 次世代をはぐくむ（将来・未来の担い手を育成）	4 街路灯の増設	○							→			○		
	5 門灯の点灯	○							→			○		
	6 消費者教育の実施（特殊詐欺被害防止啓発、等）	○							→			○		
	4.1 子どもたちのあそびの場づくり													
	1 一小っ子遊ぼう会への支援（新しい担い手づくり）	○							→			○		
	2 子どもの習い事に部屋を貸し出す（世代間交流につなげる）	○							→			○		
4. 中・高校生向けの空間づくり	4.2 中・高校生向けの空間づくり													
	1 自習室として地域の拠点の開放を検討		○		→				→			○		
	2 音楽や運動などができる場の確保		○						→			○		

基本目標	具体的な取り組み	継 続	新 規	スケジュール(西暦)					役割分担(協働の領域)				備考	
				20 年	第6次総計					① 市民	② 主に 市民	③ 市民と 行政	④ 主に 行政	
					21 年	22 年	23 年	24 年	25 年					
4. 次世代をはぐくむ（将来・未来の担い手を育成）														
	4.3 中・高校生が地域で活躍する場づくり													
1	防災行事・まつり等地域活動への参加、実行委員会への参加推進	○									○			
4.4 世代間交流の推進														
1	世代間交流事業の推進（「工作教室」等）	○								○				
2	みんないっしょ夏まつりなどの実施（2.1.1に再掲）	○								○				
4.5 子育て世代の場づくり														
1	子育て世代の交流の場づくり（ふれあいサロン等開催）	○									○			
2	子育てグループへの支援（子育てサークルの広報等）	○									○			
4.6 「一小の教育現場の課題」を地域連携での検討														
1	教育現場の課題をともに考える（コミュニティスクール）		○								○			
2	青少年関係団体の連携強化	○									○			

【あとがき】

この計画書の策定にあたり、自治会・マンション・諸団体におかれましては、アンケート調査、意見交換会出席などご協力いただき感謝申し上げます。その結果小・中学校生をはじめ多くの方のまちを愛する気持ち、そのまちを次の世代につなげたいげたいとの一小校区住民の想いを計画に反映させることができました。

アンケートに「地域のために自分のできそうなことは挑戦する」と記された方もおられます。この計画は公・民が協働で作りあげたものでもあります。実行にあたり、市の予算とマンパワーの後押し不可欠であることは言うまでもありません。

課題は山積していますが、住民は1人1人がまちづくりの担い手として次の時代を切り拓いていきましょう。

【資料】

重点プロジェクト A

宝塚南口、武庫川右岸のにぎわいづくり

【思 い】

かつての温泉街は、大型マンションが立ち並ぶ生活空間へと変貌しています。宝塚ブランドを活かした新時代の宝塚の中心市街地づくりを進めて行く時期に合わせて、生活の隣に上質な文化が存在するまちの住環境のあり方を再検討し、人生を豊かにしてくれる時間・空間づくりに住民も参加できる場づくりを進めます。

【背 景】

武庫川右岸地域は、明治時代に炭酸や温泉が見つかり、鉄道がとおり、風情のある温泉街として多くの旅館・ホテルが立ち並んでいました。宝塚歌劇場など独自の魅力があり発信力の高い文化拠点とともに発展しました。1974年に宝塚南口の駅前再開発で、5つの商業ビルが建設されました。

阪神淡路大震災後、マンション建設が進み、旅館・ホテルがも建て替わりました。宝塚南口のステータスでもあった「宝塚ホテル」も2020年3月末をもって営業を終了し、武庫川左岸地域で建設されている新ホテルが同年5月に開業する見込みです。

宝塚市では、JR・阪急宝塚駅、阪急宝塚南口駅周辺を「観光プロムナードエリア」と位置づけ、2020年4月には宝塚市立文化芸術センターが開業します。花の道のリニューアル、武庫川右岸地域では歩道の改修やあらたに河川敷を芝生化し憩いの空間を整備するなど「武庫川周辺散策空間整備事業」も進められています。今後はこれらを活用するソフト事業の充実が求められています。

「宝塚ホテル」跡地の開発や周辺の銀行・事業者、店舗、さらには公共施設の動向が気になるところです。魅力的な個店や私たちの日常生活を支える店舗の営業が継続できるよう、この地の「宝塚らしさ」を磨き直す時となっています。

【目 標】

宝塚南口、武庫川右岸エリアが、よりよいものになるよう、市民の声・意見を集める。

【取り組みの方向性・アイデア】

A.1 「場所の記憶」、「地域の魅力」の再発見・発信

- ・地域の歴史がわかる資料（地図、写真など）を集める。
- ・個店の魅力を集め、発信する。

A.2 地域の人の対話があふれるセミ・パブリックな空間づくり

- ・サンビオラなど、商業施設の空きスペースや公園などの活用状況を調査する。
- ・いろいろ人の居場所となりうる場をPRする。
- ・小規模でも人が集まることができる場を確保する。

A.3 武庫川と一体化したまちづくりの推進

- ・川に面した空間の活用・魅力アップを検討する。
- ・プロムナードとして整備される河川敷や県道と飲食店がならぶ「月地線」を「月の道」として市民が楽しめるスポットにする。

A.4 民力を集めた市民のためのイベント

- ・にぎわいづくりを検討・企画・運営する場をつくる。

【具体的な取り組み（2019～2025）】

A1	1.4.1、1.6.1
A2	1.1.1、1.3.1、1.5.1
A3	1.1.1、1.2.1
A4	

重点プロジェクトB マンション・コミュニティづくり

【思 い】

マンションに居住されている方との円滑な情報共有を行い、さらに地域自治システムのあり方を検討することで、第一小学校区にあった仕組みを創造するために、マンション・コミュニティづくりに取り組みます。

【背 景】

私たちのまち「宝塚第一小学校区（以下一小校区とする）」には、玄関口のひとつに位置づけられている「宝塚南口駅」と温泉街として開けて湯本町地区があります。このエリアは、阪神・淡路大震災以降、急速に中高層マンションが立地し、人口も増えています。

第一小学校区まちづくり協議会の発足当初、当時立地していたマンションの管理組合と話し合う機会をもち、まちづくり協議会への参加を促し、現状において20のマンションの自治会あるいは管理組合が参加していますが、参加していないマンションも数多くなっています。

広報紙の配布などを通じて働きかけを続けていますが、まち協に関する情報提供、相互の情報共有ができていないマンションが多い状態です。

近年の集中豪雨による災害発生、30年以内に発生するとされている南海トラフ巨大地震、さらには高齢化が進む中での高齢者の社会参加、見守り活動、少子化の中での子育て支援など、地域で対応していくことが期待されていることも多数あり、マンションに居住している人との協力・連携は避けて通れないものであると実感しており、マンション管理組合と今後のコミュニティのあり方を検討し、その体制づくりに取り組むことが必要だと考えています。

【目 標】

マンション建設時から自治会、まち協への参加を促す仕組みの確立

第一小学校区まちづくり協議会に参画するマンション管理組合・マンション自治会の増加

【取り組みの方向性・アイデア】

B.1 自治会やまち協など地域でのさまざまな取り組みのPR

- ・マンション側のニーズをしるために、一緒に考えてくれそうなマンションと話し合いを進める。
- ・マンション居住者に向けて、地域を知ってもらう情報をまとめること。（マンション居住者以外へのPRにも活用）

B.2 マンション管理組合とつながるツールづくり

- ・「防災」と「福祉」をテーマにマンションとのつながりづくりを行っている事例を学ぶ。
- ・マンション管理組合を対象とした防災学習会を実施するため、市と協働して学習プログラムづくりに取り組む。

B.3 市と連携したマンションへの働きかけ

- ・行政から、新規マンション建設時に管理組合が自治会・まち協に参加することを促してもらう。
- ・市と連携して、マンション管理組合に対し、マンション・コミュニティを考える機会の実施を働きかける。
- ・検討したいと申し出たマンション管理組合に対して、市とまち協が連携して説明の機会を設ける。

【具体的な取り組み（2019～2025）】

B.1	2.5.1、2.5.2、2.5.3
B.2	2.5.3、2.5.4
B.3	2.5.5、2.5.6

重点プロジェクトC

「防災福祉コミュニティ」づくり

【思 い】

地域には多様な人がいて、できること、望まれる支援もさまざまです。だからこそ、災害発生など、いざという時に共に助け合うためには、日頃から顔の見える関係づくりが大切であると実感しています。今、あらためて私たちのまち「宝塚第一小学校区（以下一小校区とする）」で、身近な地域から「防災福祉コミュニティ」を見直し、強化する取り組みを進めます。

【背 景】

一小校区は、山沿いと川沿いの住宅地があり、また地域の拠点である小学校が校区の端に位置していることから、特に高齢者が行きにくいことがあります。このため、「防災」の取り組みでは、地域の地理的条件でブロック分けし、そのブロック内の自治会・管理組合が中心となって、それぞれのブロックでの災害時の対応を検討しています。福祉部会では、より身近な範囲で課題を共有する取り組みを進めています。

2017 年に宝塚市から、地区の民生児童委員や避難支援組織として届出があった自治会が、災害時の安否確認や避難行動支援を行うための訪問活動に取り組んでおり、共助の助け合い活動についても検討しています。

今後さらに少子高齢化がさらに進行する中、高齢者がいつまでも生きがいをもってこのまちで暮らせるよう、また子どもを安心して育てられる環境づくり、誰もが困った時にすぐに専門家の支援が得られるまちづくりのために、地域での見守り、つながりがますます重要になってくることを踏まえて、防災の取り組みと福祉の取り組みの連携、自治会・管理組合がブロック単位でます協力しあう体制づくりに取り組む必要があると考えています。

【目 標】

ブロック単位での共助の仕組み「防災福祉コミュニティ」づくり
5 年後には、防災面、福祉面から、それぞれにアプローチした結果を出し合い、「ブロック」の拠点を確保する。

【取り組みの方向性・アイデア】

C.1 ブロックの必要性と課題の共有

地域防災委員会において、課題が共有している自主防災会が集まり、取り組み（災害想定、安否確認、備蓄、避難誘導、拠点づくり、避難所、避難ルートの整理）を検討する。

福祉ネットワーク会議をブロックごとに開催して、日常的に実施している活動に関する情報共有や課題の確認を行う。

マンションについては、管理組合等と防災や日常的な活動について関心の高いマンションと情報提供や情報交換する機会を設ける。
⇒「重点プロジェクト B」へ

C.2 ブロックを意識して、協働の取組みの推進

地域防災委員会

- ・自治会単位での防災方針を作成する。
- ・各ブロックの拠点のあり方の検討、設置に向けた取り組みを進める。

地域福祉ネットワーク会議を通して、地域の福祉的な課題解決に向けた検討を行う。

C.3 拠点に関する考え方の整理と確保方策の検討

- ・「地域防災委員会」と「福祉部会」の活動の成果を共有し、ブロックの考え方を整理する。
- ・各自治会、自主防災会、サロン活動など、ブロックを内で共有する機会を設ける。
- ・空き家や集会室など地域で活用できる拠点資源を発掘する。
- ・ブロックごとに拠点確保に向けた活動方針をまとめること。

C.4 ブロック間の連携事項の検討

- 各ブロックの特性を踏まえて、想定される災害ごとにブロック間で、どのような助け合いが可能かを検討する。

【具体的な取り組み（2019～2025）】

C.1	2.3.1、2.3.2、2.3.3 2.6.1、2.6.4
C.2	2.6.1 3.1.6、3.3.1、3.3.2
C.3	2.6.2、2.6.3 1.3.1 3.2.2

重点プロジェクトD
中・高校生の地域での活躍の場・居場所づくり

【思 い】

「宝塚第一小学校区（以下一小校区とする）」で育ち、中・高校生になった子ども達が、地域の中で自分らしさを追求し、伸び伸びと活動し、豊かな経験を積んでもらうために、中・高校生の地域での活躍の場・居場所づくりに取り組めます。

これらを達成するために、地域の人が中・高校生と一緒に、規制やルールを見直し、よりよい環境をつくっていこうという共通認識をもつことが不可欠であり、そのための取り組みを積み上げていきます。

【背 景】

一小校区には、「ボール遊びができる公園がない」「中・高校生が集まるような場がない」という声が、今回の調査でも多くの子ども達から出されました。この課題は、決して新しいものではなく、以前から解決しないまま積み残してきた問題であり、この機会に何らかの前進を図ることが求められています。

中・高校生はクラブ活動をしている子もいれば、そうでない子もいます。興味・関心のあることに熱中している子もいれば、何をしたいかが見つからず、力をあり余している子もいます。防砂訓練や夏祭りには中学生に参加を呼びかけて、役割を担ってもらっていますが、もっと地域の中に、中・高校生が活躍することが出来る場が増えれば、多世代とのつながりづくりも進むことが期待されます。また、この中・高校生との日頃からのつながりが、災害時などいざという時に、中・高校生に力を発揮してもらう下地になると期待できます。

【目 標】

既存の公園を活用したボール遊びができる公園づくり
小学校や自治会館、児童館などを活用した中・高校生の居場所づくり
中・高校生と連携した行事の企画・運営

【取り組みの方向性・アイデア】

D.1 既存の公園を活用したボール遊びができる公園づくり

ステップ1	地域内の公園調査（既存調査をベースに追調査） ・中・高校生、自治会との連携 ・公園集約化の可能性の検討
ステップ2	ボール遊びに適した公園の選別、ルールの想定 ・周辺住民、地元自治会との連携・調整 公園の改造計画 ・公園長寿命化計画の更新時にあたる公園から検討

D.2 小学校や自治会館、児童館などを活用した中・高校生の居場所づくり

ステップ1	宝梅ハウスの自習室開放に向けた管理体制の検討 (居場所づくり事例、中・高校生への希望調査等) 児童館運営委員会等での検討
ステップ2	小学校の体育館・グラウンドを活用した中・高校生データの検討

D.3 中・高校生と連携した行事の企画・運営
(地域の防災訓練やまつりなどへの参加)

ステップ1	連携事例の調査、共有
ステップ2	連携事例での課題の整理 連携状況のレベルアップの検討
ステップ3	継続的に受け入れるための仕組みの検討

【具体的な取り組み（2019～2025）】

D1	1.3.1、1.3.2、1.3.3
D2	4.2.1、4.2.2
D3	4.3.1